

<会員による自著紹介>

大学の学び 教育内容と方法 リーディングス 日本の高等教育 2

杉谷祐美子（編著）

青山学院大学

玉川大学出版部（2011年発行）
定価 4,500円（税別）



本書は、『リーディングス 日本の高等教育』シリーズの第2巻として刊行された大学教育に関する論文集である。本リーディングスの企画編集にあたった橋本鉦市氏（東京大学）と阿曾沼明裕氏（名古屋大学）によれば、21世紀に入って、日本の高等教育や諸環境が激変するなか、あえて立ち止まってこれまでの高等教育研究を振り返ることにより、新たな研究視座と課題発見の契機となることを期待し、本シリーズを企画した。日本の高等教育をめぐる問題群を区分けした、全8巻から成るリーディングス各巻は、「総説」及びトピック別の「部」ごとに解説を加え、重要と思われる論文を所収し、参考文献表を付している。また、戦後60年有余の高等教育の動向も踏まえて、一通りの基本的知識が理解できるよう、初学者や一般読者などにも配慮している。

大学教育を扱った本巻では、特に大学4年間の学士課程教育を対象としている。編著者の意図としては、「質」という点に鑑みて、今後一層重視されるであろう「大学の学び」の在り方を問いつつ、その学びへの働きかけとして大学（教員）に何ができるかを考えるために、本書を編纂した。その中身は、副題に示す通り、カリキュラム編成や教授法にとどまらず、カリキュラムの構成要素である教育内容や教育システムの基盤となる道具立てに関わる論考までも幅広く含んでいる。

「総説」後の部構成は、「第1部 一般教育から教養教育へ」、「第2部 学士課程教育の構築」、「第3部 大学教育の大道具と小道具」、「第4部 変わる大学の授業」、「第5部 大学における教育と学習」としている。第1部と第2部では主に教育内容の、第3部と第4部では主に方法に関する論考を集め、第5部で「学び」の観点からこれまでの大学教育に関する研究と改革の動向を問い直す構成をとっている。近年では、多様な分野の研究者が大学教育を研究対象とするようになり、高等教育研究の対象と方法にさらに広がりとお行きを与えつつある。本学会との関連でいえば、初年次教育については第1部でふれているが、読者諸氏には是非とも全体を通読し、高等教育研究の流れのなかで、その位置づけと研究の意義を理解していただきたいと思う。